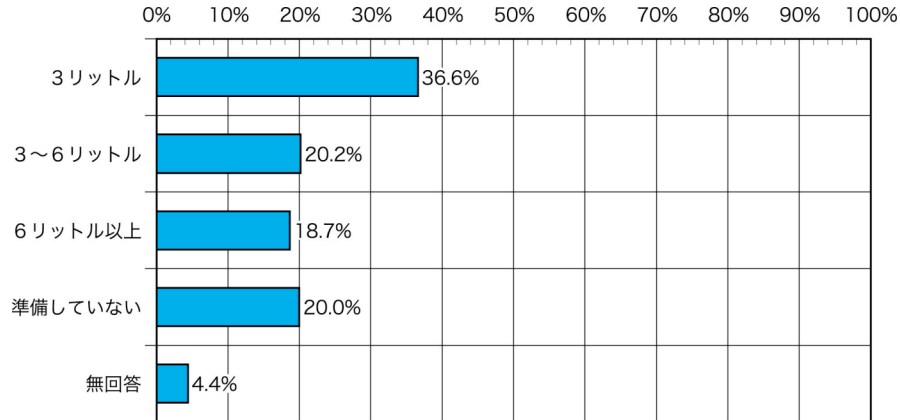


問3 水はどの程度準備していますか。次の中から1つだけ選んでください。

		1 3リットル	2 3～6リットル	3 6リットル以上	4 準備していない	無回答	合計	
全体	度数	486	269	249	266	59	1,329	
	割合	36.6%	20.2%	18.7%	20.0%	4.4%	100.0%	
年代	1 20歳代	度数	27	21	12	17	5	82
		割合	32.9%	25.6%	14.6%	20.7%	6.1%	100.0%
	2 30歳代	度数	75	36	28	37	4	180
		割合	41.7%	20.0%	15.6%	20.6%	2.2%	100.0%
	3 40歳代	度数	74	38	41	41	4	198
		割合	37.4%	19.2%	20.7%	20.7%	2.0%	100.0%
	4 50歳代	度数	107	46	44	64	6	267
		割合	40.1%	17.2%	16.5%	24.0%	2.2%	100.0%
	5 60歳代	度数	114	68	65	61	13	321
		割合	35.5%	21.2%	20.2%	19.0%	4.0%	100.0%
	6 70歳以上	度数	89	60	59	46	27	281
		割合	31.7%	21.4%	21.0%	16.4%	9.6%	100.0%

水の準備状況については、「3リットル」(36.6%)という回答が一番多く、次に「3～6リットル」(20.2%)、「6リットル以上」(18.7%)と続いている。一方で、「準備していない」(20.0%)という回答も2割ある。

大きな地震などの場合、一人1日当たり3リットルの水が必要といわれている。また、公的な支援を得られるまで通常3日間かかることから、一人当たり9リットル以上準備することが重要といえる。しかし、「6リットル以上」準備している家庭は2割に満たない状況である。災害時に備え、どのくらいの水を準備すべきか、その十分な量を把握していないことからこのような結果になっていると考えられる。

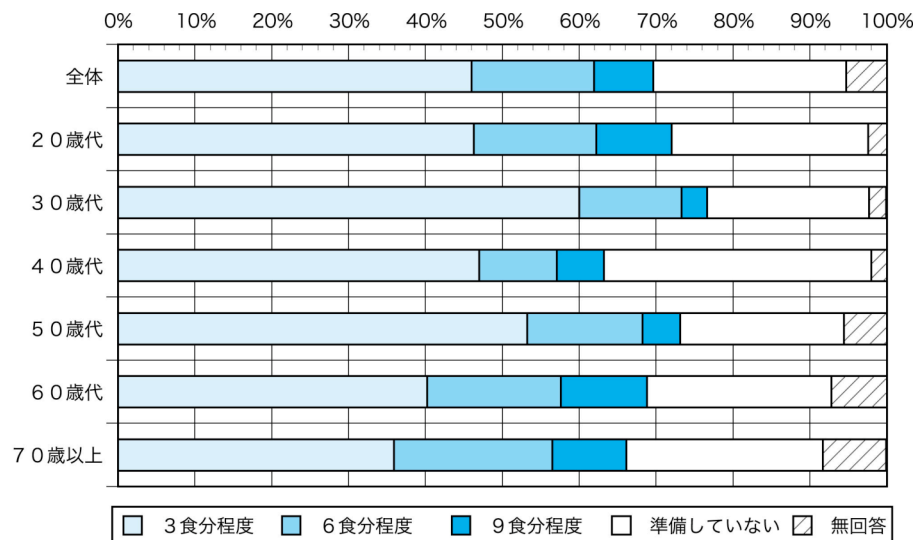


問4 食料はどの程度準備していますか。次の中から1つだけ選んでください。

		1 3食分程度	2 6食分程度	3 9食分程度	4 準備していない	無回答	合計	
全体	度数	611	211	102	334	71	1,329	
	割合	46.0%	15.9%	7.7%	25.1%	5.3%	100.0%	
年代	1 20歳代	度数	38	13	8	21	2	82
		割合	46.3%	15.9%	9.8%	25.6%	2.4%	100.0%
	2 30歳代	度数	108	24	6	38	4	180
		割合	60.0%	13.3%	3.3%	21.1%	2.2%	100.0%
	3 40歳代	度数	93	20	12	69	4	198
		割合	47.0%	10.1%	6.1%	34.8%	2.0%	100.0%
	4 50歳代	度数	142	40	13	57	15	267
		割合	53.2%	15.0%	4.9%	21.3%	5.6%	100.0%
	5 60歳代	度数	129	56	36	77	23	321
		割合	40.2%	17.4%	11.2%	24.0%	7.2%	100.0%
	6 70歳以上	度数	101	58	27	72	23	281
		割合	35.9%	20.6%	9.6%	25.6%	8.2%	100.0%

災害時に備えた食料については、「3食分程度」(46.0%)という回答が約5割で一番多い。次に、「準備していない」(25.1%)が多く約4分の1となる。

大きな地震の際に最低3日間は自力で生活をする必要があることから、9食程度の準備が必要となる。しかし、「9食分程度」(7.7%)という回答は1割にも満たない結果となっている。また、「準備していない」という回答も4分の1程度あることから、食料に対する準備は不十分な状況にあるといえる。



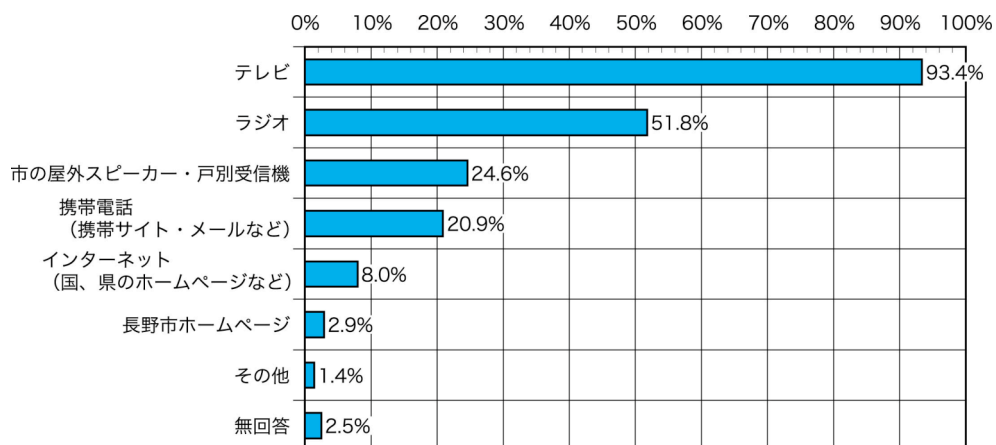
問5 あなたは、主にどこから災害情報を得ていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

		1 テレビ	2 ラジオ	3 市の屋外スピーカー・戸別受信機	4 長野市ホームページ	5 インターネット（国、県のホームページなど）	6 携帯電話（携帯サイト・メールなど）	7 その他	無回答	合計	
全体	度数	3,037	1,684	800	94	261	680	44	80	3,252	
	割合	93.4%	51.8%	24.6%	2.9%	8.0%	20.9%	1.4%	2.5%	-	
年代	1 20歳代	度数	274	94	45	2	44	128	1	3	288
		割合	95.1%	32.6%	15.6%	0.7%	15.3%	44.4%	0.3%	1.0%	-
	2 30歳代	度数	517	208	86	4	59	158	5	9	548
		割合	94.3%	38.0%	15.7%	0.7%	10.8%	28.8%	0.9%	1.6%	-
	3 40歳代	度数	500	239	121	12	64	120	5	9	531
		割合	94.2%	45.0%	22.8%	2.3%	12.1%	22.6%	0.9%	1.7%	-
	4 50歳代	度数	605	383	173	15	38	114	3	11	643
		割合	94.1%	59.6%	26.9%	2.3%	5.9%	17.7%	0.5%	1.7%	-
	5 60歳代	度数	635	426	210	33	39	105	14	20	684
		割合	92.8%	62.3%	30.7%	4.8%	5.7%	15.4%	2.0%	2.9%	-
	6 70歳以上	度数	504	333	164	28	17	54	15	26	554
		割合	91.0%	60.1%	29.6%	5.1%	3.1%	9.7%	2.7%	4.7%	-

災害情報を得ている媒体としては、「テレビ」（93.4%）という回答が一番多く9割を超えている。次に「ラジオ」（51.8%）、「市の屋外スピーカー・戸別受信機」（24.6%）と続いている。

年代層で見ると、「テレビ」という回答は、年代に係らず9割の回答となっている。しかし、「ラジオ」という回答については、「20歳代」、「30歳代」では30%台の回答であるものの、「40歳代」から上の年代では徐々にその回答割合が高まり、「60歳代」、「70歳以上」では60%台の回答結果となっている。この傾向は、「市の屋外スピーカー・戸別受信機」でも同様である。一方、「携帯電話」、「インターネット」については、「20歳代」から「40歳代」で回答割合が高く、かつ若い年代ほど回答が多くなる傾向にある。

「テレビ」という媒体については、年代による差は少ないものの、「ラジオ」、「市の屋外スピーカー・戸別受信機」については、年代層が高い方が利用する傾向が強く、「携帯電話」、「インターネット」については若い年代層が利用する傾向が強い。「テレビ」以外の媒体は、その利用年代層に限られる場合があるため、提供する情報により媒体の利用方法を変える必要があると考えられる。



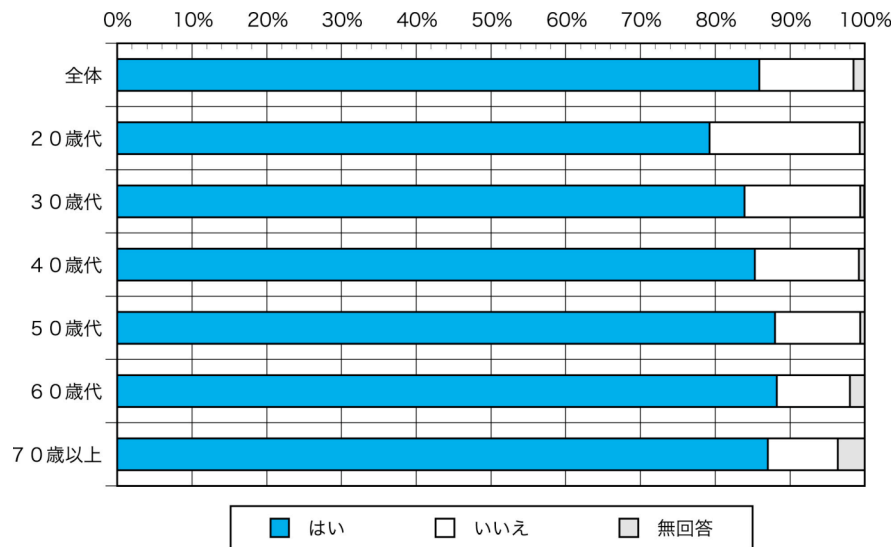
問6 大きな地震が発生する場合、数秒から数十秒前にテレビ・ラジオを通じて緊急地震速報が放送されますが、ご存知ですか。次の中から1つだけ選んでください。

		1 はい	2 いいえ	無回答	合計	
全体	度数	2,794	409	49	3,252	
	割合	85.9%	12.6%	1.5%	100.0%	
年代	1 20歳代	度数	228	58	2	288
		割合	79.2%	20.1%	0.7%	100.0%
	2 30歳代	度数	460	85	3	548
		割合	83.9%	15.5%	0.5%	100.0%
	3 40歳代	度数	453	74	4	531
		割合	85.3%	13.9%	0.8%	100.0%
	4 50歳代	度数	566	73	4	643
		割合	88.0%	11.4%	0.6%	100.0%
	5 60歳代	度数	603	67	14	684
		割合	88.2%	9.8%	2.0%	100.0%
	6 70歳以上	度数	482	52	20	554
		割合	87.0%	9.4%	3.6%	100.0%

緊急地震速報がテレビ・ラジオで放送されることについて知っているという回答した割合は、85.9%と8割を超えている。しかし、知らないという回答も12.6%、約1割程度ある。

年代層でみると、知っている割合は各年代層とも8割を超える傾向にある。しかし、知らない割合をみると、「20歳代」が一番多く20.1%、約2割となる。年代層が上がるにつれ、知らない割合は減少するものの、「30歳代」で15.5%、「40歳代」で13.9%と1割を超えている。

緊急地震速報開始時には、テレビ・ラジオなどでその内容の告知が図られていた。しかし、若い世代程、テレビなどでその内容を見聞きする機会が少なく、結果として緊急地震速報を知らないという割合が高くなっているものと考えられる。



【住宅用火災警報器について】

問7 長野市火災予防条例により、住宅用火災警報器を平成21年6月1日までに設置することが義務付けられましたが、あなたはご存知ですか。次の中から1つだけ選んでください。

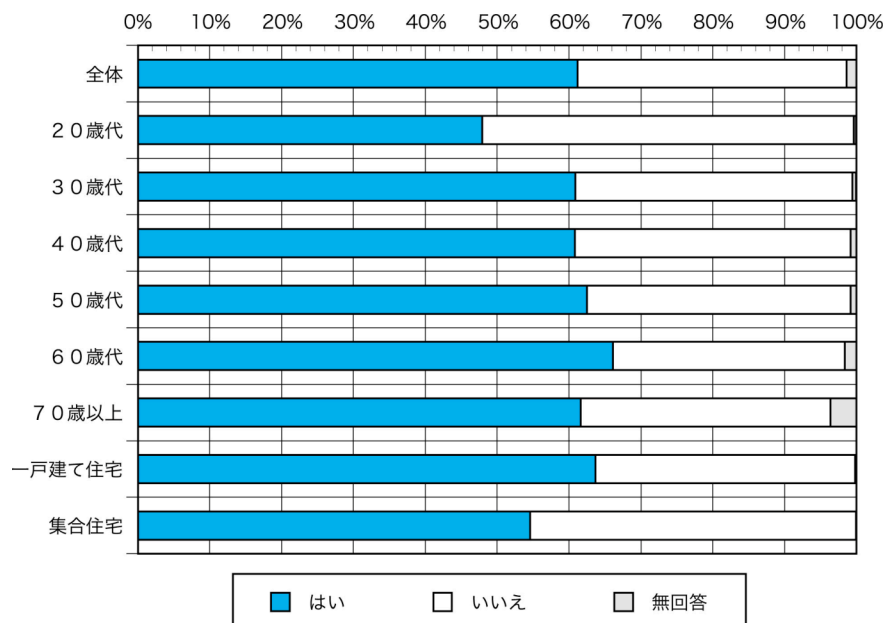
		1 はい	2 いいえ	無回答	合計	
全体	度数	1,991	1,215	46	3,252	
	割合	61.2%	37.4%	1.4%	100.0%	
年代	1 20歳代	度数	138	149	1	288
		割合	47.9%	51.7%	0.3%	100.0%
	2 30歳代	度数	334	211	3	548
		割合	60.9%	38.5%	0.5%	100.0%
	3 40歳代	度数	323	204	4	531
		割合	60.8%	38.4%	0.8%	100.0%
	4 50歳代	度数	402	236	5	643
		割合	62.5%	36.7%	0.8%	100.0%
	5 60歳代	度数	452	221	11	684
		割合	66.1%	32.3%	1.6%	100.0%
	6 70歳以上	度数	341	193	20	554
		割合	61.6%	34.8%	3.6%	100.0%
問8	1 一戸建て住宅	度数	1,667	945	5	2,617
		割合	63.7%	36.1%	0.2%	100.0%
	2 集合住宅	度数	322	267	1	590
		割合	54.6%	45.3%	0.2%	100.0%

条例により住宅用火災警報器の設置が義務づけられたことについては、知っているという回答は61.2%、と約6割となる。一方、知らないという回答は、37.4%と4割近くとなる。

年代層で見ると、「20歳代」では、知らないという回答が51.7%と5割に達している。「30歳代」以上では、知らないという割合は30%台となり、「20歳代」は特に知らない割合が高いといえる。

「20歳代」は、住宅を管理している割合が低く、条例による住宅用火災警報器の設置に対する関心度も低くなるためと考えられる。

住宅の状況では、「一戸建て住宅」に住んでいる方は、条例を知っている割合がやや高く、「集合住宅」に住んでいる方は、やや低い回答となっている。



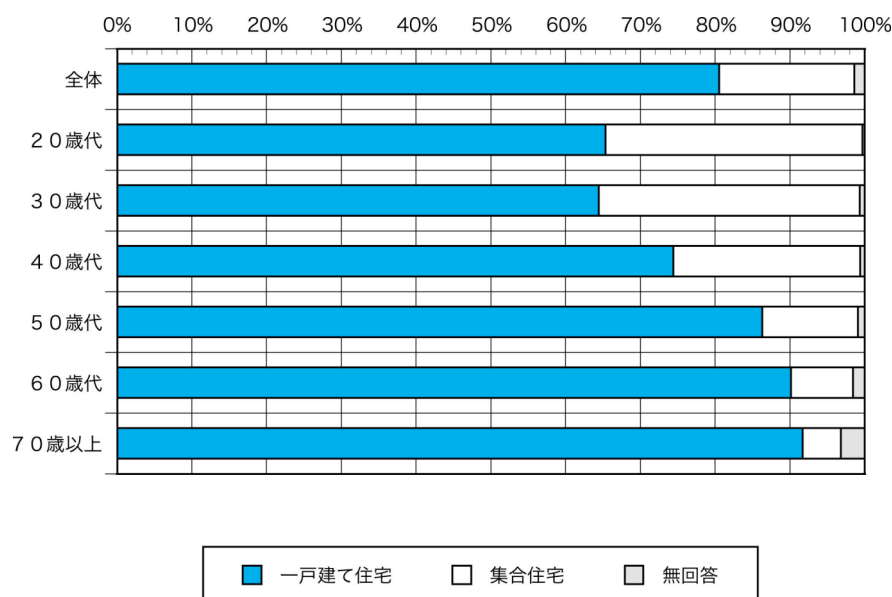
問8 あなたがお住まいの家は戸建て住宅ですか、集合住宅（アパート、マンション等）ですか。次の中から1つだけ選んでください。

		1 戸建て住宅	2 集合住宅	無回答	合計	
全体	度数	2,617	590	45	3,252	
	割合	80.5%	18.1%	1.4%	100.0%	
年代	1 20歳代	度数	188	99	1	288
		割合	65.3%	34.4%	0.3%	100.0%
	2 30歳代	度数	353	191	4	548
		割合	64.4%	34.9%	0.7%	100.0%
	3 40歳代	度数	395	133	3	531
		割合	74.4%	25.0%	0.6%	100.0%
	4 50歳代	度数	555	82	6	643
		割合	86.3%	12.8%	0.9%	100.0%
	5 60歳代	度数	616	57	11	684
		割合	90.1%	8.3%	1.6%	100.0%
	6 70歳以上	度数	508	28	18	554
		割合	91.7%	5.1%	3.2%	100.0%
居住年数	1 5年未満	度数	150	151	4	305
		割合	49.2%	49.5%	1.3%	100.0%
	2 5年以上10年未満	度数	98	85	2	185
		割合	53.0%	45.9%	1.1%	100.0%
	3 10年以上20年未満	度数	221	81	3	305
		割合	72.5%	26.6%	1.0%	100.0%
	4 20年以上	度数	2,141	272	33	2,446
		割合	87.5%	11.1%	1.3%	100.0%

現在の住まいが「戸建て住宅」とあるという回答は、80.5%と8割となる。一方、「集合住宅」という回答は、18.1%と2割に満たない結果となっている。

年代層で見ると、「20歳代」、「30歳代」では、「集合住宅」という回答は、それぞれ34.4%、34.9%と30%台となっている。「40歳代」では、25.0%となり、「50歳代」では12.8%と10%台になっている。年代層が上がるにつれ、「戸建て住宅」の割合が高まり、「集合住宅」の割合は減少する傾向にある。

長野市での居住年数で見ると、「5年未満」、「5年以上10年未満」では、「集合住宅」という回答が、それぞれ49.5%、45.9%となり、4割を超えている。





問9 あなたがお住まいの住宅には現在、住宅用火災警報器を設置してありますか。次の中から1つだけ選んでください。

		1 既に設置してある	2 1年以内に設置する予定	3 平成21年6月1日までに設置する予定	4 その他	無回答	合計	
全体	度数	659	285	1,468	703	137	3,252	
	割合	20.3%	8.8%	45.1%	21.6%	4.2%	100.0%	
年代	1 20歳代	度数	55	18	122	85	8	288
		割合	19.1%	6.3%	42.4%	29.5%	2.8%	100.0%
	2 30歳代	度数	157	28	212	137	14	548
		割合	28.6%	5.1%	38.7%	25.0%	2.6%	100.0%
	3 40歳代	度数	135	26	227	127	16	531
		割合	25.4%	4.9%	42.7%	23.9%	3.0%	100.0%
	4 50歳代	度数	98	42	340	141	22	643
		割合	15.2%	6.5%	52.9%	21.9%	3.4%	100.0%
	5 60歳代	度数	114	103	336	102	29	684
		割合	16.7%	15.1%	49.1%	14.9%	4.2%	100.0%
	6 70歳以上	度数	99	68	230	111	46	554
		割合	17.9%	12.3%	41.5%	20.0%	8.3%	100.0%
問8	1 一戸建て住宅	度数	348	273	1,398	519	79	2,617
		割合	13.3%	10.4%	53.4%	19.8%	3.0%	100.0%
	2 集合住宅	度数	308	12	70	183	17	590
		割合	52.2%	2.0%	11.9%	31.0%	2.9%	100.0%

住宅用火災警報器の設置については、「既に設置してある」(20.3%)という回答は、約2割となっている。「1年以内に設置する予定」(8.8%)、「平成21年6月1日までに設置する」(45.1%)という回答を合わせると、約7割となる。

住宅種別でみると、「集合住宅」の方は、約半数が「既に設置している」と回答している。一方、「一戸建て住宅」の方は、約1割程度しか「既に設置している」と回答していない。「一戸建て住宅」に住んでいる方は、これから設置する予定となる。

「その他」という回答が全体でも約2割ある。さらに、「その他」の内容をみると、条例の主旨を理解されていない方がいると考えられる。

条例の主旨や住宅用火災警報器とはどのようなもので、何を目的に設置を義務づけられたか、また設置する際の費用などはどれくらいなのかなど、住宅用火災警報器設置に関する啓蒙を積極的に進める必要があると考えられる。

